キリスト教教父著作集10 オリゲネス5

『ケルソス駁論皿』

オリゲネス**著 出村みや子**訳



2-3世紀の護教論運動の頂点を画した『ケルソス駁論』の翻訳が遂に完結!

異教徒哲学者ケルソスの『真正な教え』への弁明として書かれ、2-3世紀の護教論運動の頂点を画したと評されるオリゲネスの『ケルソス駁論』。最終巻(第6-8巻)となる本書には、ローマの知識人や権力者に向けて、キリスト教がローマ帝国の社会秩序や宗教祭儀、社会道徳に資する優れた宗教であることが主張されている。聖書解釈者・神学者としてのオリゲネスの力量が遺憾なく発揮された書であり、当時の教会と国家の関係を知る上でも必読。

著書 『総説キリスト教史1 原始・古代・中世』(共著、日本キリスト教団出版局、2007年)、『聖書解釈者オリゲネスとアレクサンドリア文献学』(知泉書館、2011年) ほか。訳書 『キリスト教教父著作集8 ケルソス駁論 I 』(教文館、1987年)、『キリスト教教父著作集9 ケルソス駁論 II』(教文館、1997年) ほか。

A5判·上製·290頁·定価6,490円(本体5,900円+税)ISBN978-4-7642-2910-5 C3316